

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2026年第7週 2026年2月9日（月）～2026年2月15日（日）2026年2月19日作成

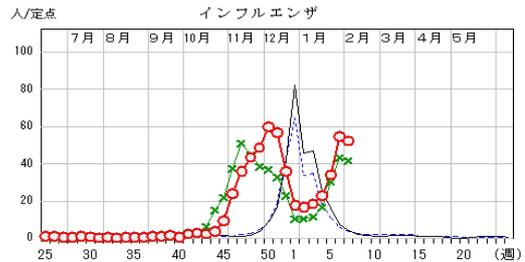
☆定点^{*}報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第7週の報告数は2665人で、前週より119人少なく、定点当たりの報告数は52.25であった。

年齢別では、10歳未満（1344人）、10～19歳（959人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（66.45）、県北保健所（65.00）であった。

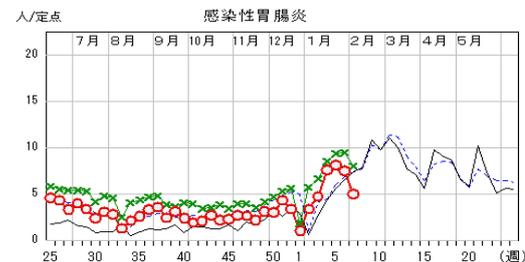


（2）感染性胃腸炎

第7週の報告数は154人で、前週より78人少なく、定点当たりの報告数は4.97であった。

年齢別では、1歳（37人）、2歳（24人）、3歳（13人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（12.00）であった。

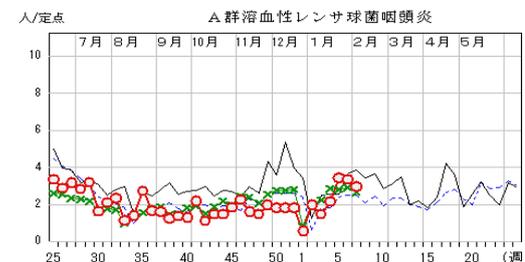


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第7週の報告数は92人で、前週より12人少なく、定点当たりの報告数は2.97であった。

年齢別では、10～14歳（21人）、8歳（16人）、7歳（14人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（8.50）、県南保健所（8.33）、西彼保健所（6.67）であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
 ×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第7週の報告数は2665人で、定点当たり報告数は52.25となりました。前週より減少しましたが、警報レベルの報告数が13週間継続しています。地区別では、10保健所のうち9保健所が警報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第7週の報告数は154人で、定点当たりの報告数は4.97でした。地区別にみると、県北地区（12.00）、県央地区（7.20）は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第7週の報告数は92人で、定点当たりの報告数は2.97でした。地区別では、対馬地区（8.50）、県南地区（8.33）、西彼地区（6.67）が警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：急性呼吸器感染症（ARI）に注意しましょう

急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection:ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎）または下気道炎（気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などが含まれます。法律の改正により、令和7年4月7日からARIが5類感染症に位置づけられ、県内では51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されています。

ARIに含まれるインフルエンザなどの感染症は、冬期に患者数が増加する傾向にあります。予防には、手洗いやマスク着用を含む咳エチケットなどの基本的な感染対策が有効です。ARIの中には、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方が感染すると重症化するものもありますので、場面に応じた対策を心がけましょう。

●厚生労働省 令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策
<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2025.html>

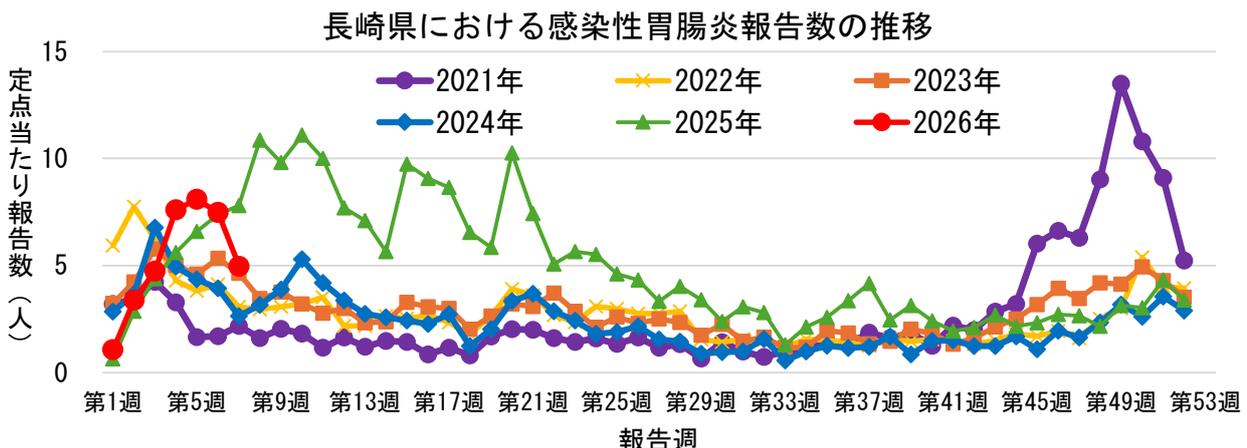
☆トピックス：感染性胃腸炎を予防しましょう

感染性胃腸炎は、12月以降に患者が増加する傾向にあります。本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には、手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。



☆トピックス：インフルエンザが流行しています

2026年第7週（2月9日～2月15日）の患者報告数は2665人で、定点当たり報告数は52.25となりました。前週より減少しましたが、警報レベルの報告数が13週間継続しています。

地区別では、10保健所のうち9保健所で警報レベルの報告数となっています。

年代別にみると、10歳未満（50%）、10代（36%）が多くなっています。20代では、前週の2倍以上の患者報告がありました。

また、12月はインフルエンザA型が中心でしたが、年明け以降、医療機関ではインフルエンザB型の患者の増加がみられています。

今後も手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

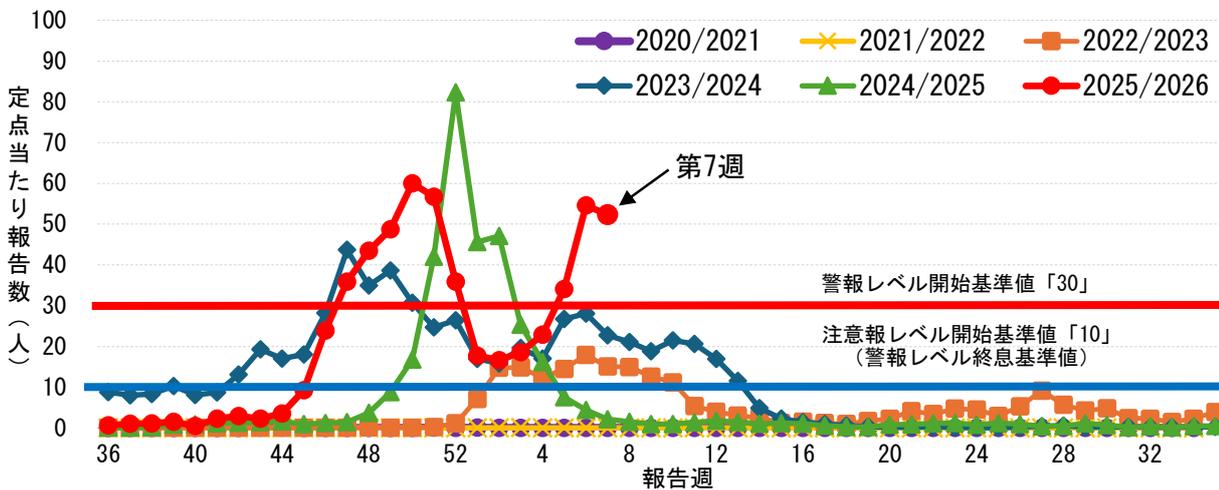
【参考】厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

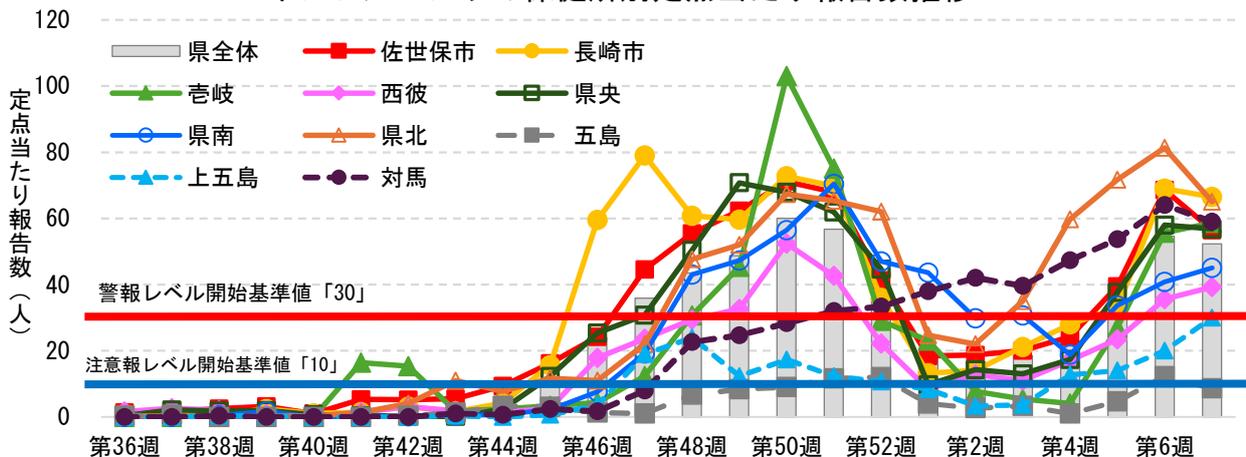
【参考】長崎県地域保健推進課 「2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等」

<https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/744804.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



インフルエンザの保健所別定点当たり報告数推移



インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
第3週	474	232	55	56	36	36	30	15	11
第4週	608	372	42	53	45	24	11	5	8
第5週	820	682	46	74	69	26	11	3	7
第6週	1324	1162	43	104	93	30	17	9	2
第7週	1344	959	93	105	103	29	15	11	6

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 無症状病原体保有者 男性（60代・1名、70代・1名） 女性（70代・1名）
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（10代・1名）
 4類感染症：報告なし
 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 女性（60代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第2～7週、1/5～2/15)

疾患名	定点当たり患者数					
	2週	3週	4週	5週	6週	7週
	1/5～	1/12～	1/19～	1/26～	2/2～	2/9～
インフルエンザ	16.59	18.53	22.90	34.08	54.59	52.25
新型コロナウイルス感染症	0.94	0.73	0.69	0.53	0.71	0.59
RSウイルス感染症	0.03	0.65	0.45	0.32	0.58	0.29
咽頭結膜熱	0.58	0.61	1.55	1.03	0.81	0.55
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.97	1.48	2.16	3.45	3.35	2.97
感染性胃腸炎	3.39	4.74	7.61	8.10	7.48	4.97
水痘	0.65	0.10	0.32	0.19	0.19	0.42
手足口病	0.03	0.23	0.58	0.10	0.23	0.23
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.84	0.58	0.55	0.55	0.23	0.35
突発性発しん	0.23	0.19	0.29	0.29	0.10	0.19
ヘルパンギーナ	0.10		0.06		0.03	
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03			0.03		
急性出血性結膜炎	0.13	0.13				
流行性角結膜炎	2.25	1.75	1.38	0.63	1.50	2.75
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎			0.08			
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.50	0.58	0.08	0.08	0.67
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	61.10	60.76	76.14	92.88	115.24	108.35

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第7週、2/9～2/15) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	52.25	56.43	66.45	58.67	39.20	56.75	45.00	65.00	8.67	30.00	59.00
新型コロナウイルス感染症	0.59	1.00	0.27	0.33	0.40	0.38	1.20	0.33	1.00	0.33	1.00
RSウイルス感染症	0.29	0.75	0.33		0.67	0.40					
咽頭結膜熱	0.55	0.25	0.17	0.50		0.40	0.67	4.50			0.50
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.97	1.50	1.17	1.50	6.67	1.80	8.33	2.00		0.50	8.50
感染性胃腸炎	4.97	6.25	6.67	1.50	6.67	7.20	2.00	12.00			
水痘	0.42	0.25	0.83	2.00		0.20		1.00			
手足口病	0.23				1.00	0.80					
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.35	0.50						4.50			
突発性発しん	0.19	0.50	0.17		0.33	0.40					
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	2.75	1.00	1.33		11.00	1.00	5.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.67	2.00	1.33		2.00						
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	108.35	119.14	165.55	78.00	102.20	106.38	63.60	102.33	9.67	85.33	121.67